

大果で果肉色と食味が優れる

やや晩生のクリ新品种「美玖里（みくり）」

9月下旬に収穫される中～晩生のクリ品種には中生の「筑波」、晩生の「石鎚」などがありますが、栽培は「筑波」に偏重しており、「筑波」以降に成熟する優良な品種が求められています。そこで、(独)農研機構果樹研究所では、大果で果肉色と食味が優れるやや晩生の新品种「美玖里」を育成したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 美味しく（美）、外観が優れており（玖：美しい黒色の石）、この品種が普及することで産地（里）が豊かになることを願い、また、旧系統名である「クリ筑波39号」の「39」にちなんで「美玖里」と命名されました。
2. 樹勢は強く、やや直立性を示します。育成地（茨城県つくば市）における雌花の満開期は6月中旬で「筑波」よりやや遅く、「石鎚」とほぼ同じです。収穫期は9月下旬で、「筑波」と「石鎚」の間です。収量は「筑波」や「石鎚」と同程度です。
3. 果実は28g程度と「石鎚」より大きく「筑波」と同程度で、果実の揃いは良好です。果皮は美しい褐色で外観が優れ(写真)、果肉は黄色です。肉質は粉質で、デンプンが充実しており、「筑波」や「石鎚」よりホクホクしています。甘味と香気は「石鎚」より多く、「筑波」と同程度で、食味は良好です。渋皮の剥皮は従来のニホングリと同様に困難です。
4. 双子果、裂果、腐敗果の発生はほとんどありません。虫害果の発生はやや高く、「筑波」や「石鎚」と同程度です。



写真 「美玖里」の結実状況と果実

☆ 活用面での留意点

1. 全国のクリ栽培地域で栽培できます。
2. 高木になりやすいので、整枝せん定等の栽培管理を励行し、樹高を制御します。
3. 詳細については、(独)農研機構 果樹研究所 ナシ・クリ・核果類研究チーム (TEL : 029-838-6464) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦)